

## 1. はじめに

神戸市は 1970 年代以降、西部（西区および須磨区北部）の丘陵地に工業団地を併設した大規模なニュータウンを建設してきた。建設に際して都心と結ぶ地下鉄を新設し、その延伸に合わせて順次建設を進めた。古い順から須磨ニュータウン（以下須磨 NT）、神戸研究学園都市（以下学園都市）、西神ニュータウン（以下西神 NT）、そして西神南ニュータウン（西神南 NT）である（図 1）。このうち西区に位置する学園都市、西神 NT、西神南 NT は丘陵地の上部にあり、谷間には農村的土地利用の卓越した伝統的な村落が散在する。中でも西神 NT と西神南 NT に挟まれた榎谷町は開発調整区域であり、農村的景観が最もよく保全されている。本研究は榎谷町を対象にニュータウンに対する住民の意識、および住民生活とニュータウンの関係を調べ、これまで十分議論されてこなかったニュータウンと周辺地域の補完関係を考えるための基礎情報を提供する。

## 2. 榎谷町の概要

榎谷町は面積 18.0Km<sup>2</sup>、人口 2,554 人（H22 年国調）の行政区域（町）である（図 2）。平成 2 年以降は漸減傾向にあるが（図 3）、世帯数は若干増加しており（図 4）、世帯の小規模化が進んでいる。また隣接するニュータウンと比較すると高齢化の水準



図 1 地下鉄「西神線」沿線のニュータウン

は 35%超とかなり高く、上昇率も大きい（図 5）。ただ既に開発の終了した西神 NT の高齢化の上昇率も徐々に高まっている。図 6 の人口変動が示すように西神南 NT は開発途上にあるのに対し、西神 NT は既に人口減少期を迎えており、樋谷町を含む周辺地域へのサービス機能の維持がいずれ大きな問題になる可能性がある。

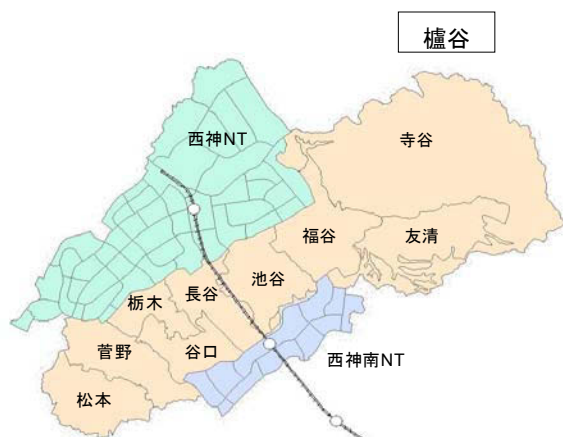


図 2 樋谷町および町内 9 地区の位置

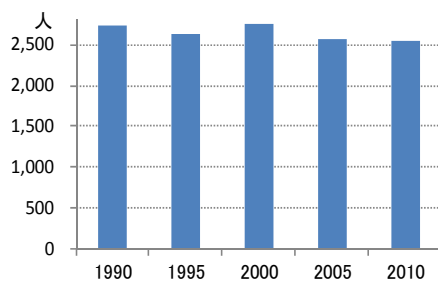


図3 人口の推移

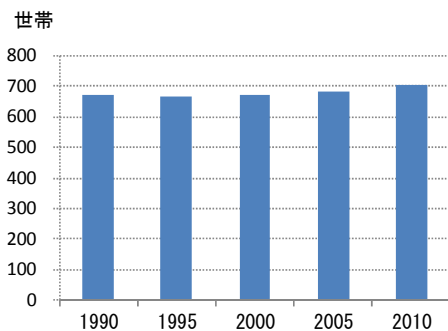


図4 世帯数の推移

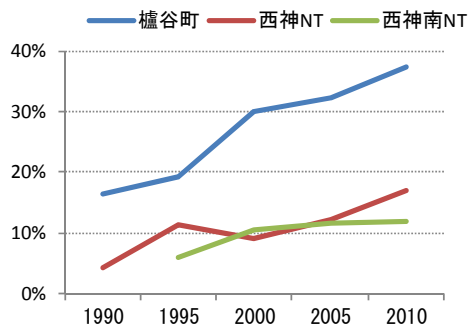


図5 65歳以上の人口比率

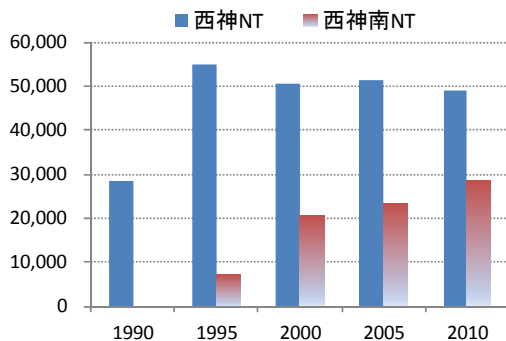


図6 ニュータウンの人口

表1 調査票の配布数と回収実績

地区名	配布世帯数	回答世帯数	回収率A(%)	回答者数	回収率B(%)
寺谷	79	37	46.8	64	40.5
友清	30	22	73.3	32	53.3
池谷	53	26	49.1	42	39.6
栃木東	112	23	20.5	33	14.7
松本	74	34	45.9	57	38.5
合計	348	142	40.8	228	32.8

注)回収率B=回答者数/(配布世帯数\*2)

### 3. 調査の概要

樋谷町にある9地区の中から地理的バランスを考慮して「寺谷地区」（79世帯）「池谷地区」（53世帯）「友清地区」（30世帯）「栃木東地区」（112世帯）「松本地区」（74世帯）を調査対象にした。調査票の配布は世帯用の調査票1部と個人用の調査票2部（世帯主と同居家族）を入れた封筒を2008年5月初旬に3回に分けて各戸の郵便受けに投函し郵送により回収した。表1に回収実績を示す。世帯用は142件（回収率40.8%）、個人用は228件（回収率32.8%）であった。

### 4. 調査結果

#### 4-1 世帯の回答

図7は同一世帯の家族数である。3人以下の小規模世帯が44%ある一方で、6人以上の大規模世帯が20%近くある。家族構成（図8）をみると、「単身」「夫婦」「夫婦と子供」が半数を占める一方、三世代が30%近くある。これら大規模世帯と三世代家族の存在が樋谷町の特徴である。図9は濃い血縁者が地下鉄沿線のニュータウンに住んでいる世帯の割合を示している。西神NTに60%、西神NTに30%と多く、学園都市と須磨NTは少ない。90%を超える世帯で親族が隣接ニュータウンに住んでおり、血縁関係という強いきずで結ばれている。

図10-1~図10-5は生活サービス機能が皆無に近い樋谷町の世帯が「買物」「治療」「外食」という基本的な生活課題をどこで処理しているかを示している。

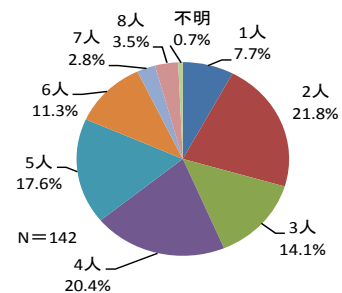


図7 同一世帯の家族数

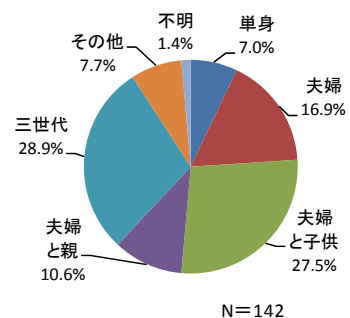


図8 同一世帯の家族構成

「平日の買物」(図 10-1) では「西神 NT」「その他の西区」「西神南 NT」の占める割合が大きい。「休日の買物」(図 10-2) でも同様の傾向が見られる。特に「西神 NT」が大きく榎谷町の買物拠点になっていることが分かる。「軽い病気の治療」では「西神 NT」「その他の西区」「榎谷町」の割合が高いが、「入院・専門医の治療」では「西神 NT」の割合が飛びぬけて高い。普段の医療サービスは地元である程度賄っているものの、医療サービスのほとんどを西神 NT に依存している。「外食」では「その他の西区」が「西神 NT」を抑えて第一位になっている。選択と変化を求める外食では西神 NT のサービスは物足りないことを窺わせる。

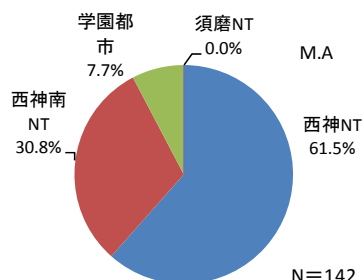


図9 親子・兄弟姉妹が住むニュータウン

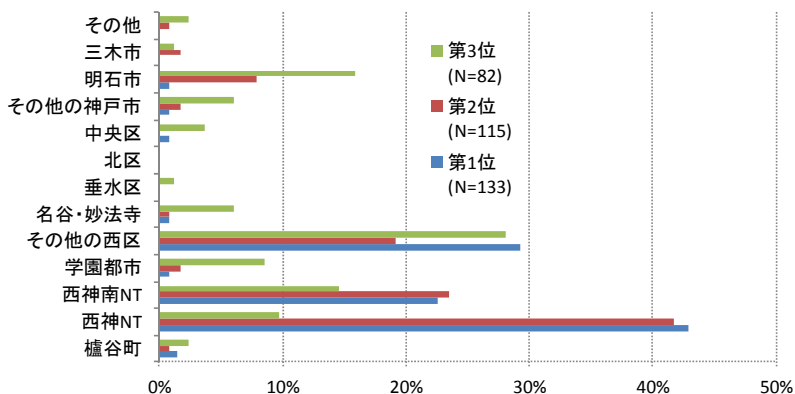


図10-1 平日の買物先(世帯単位)

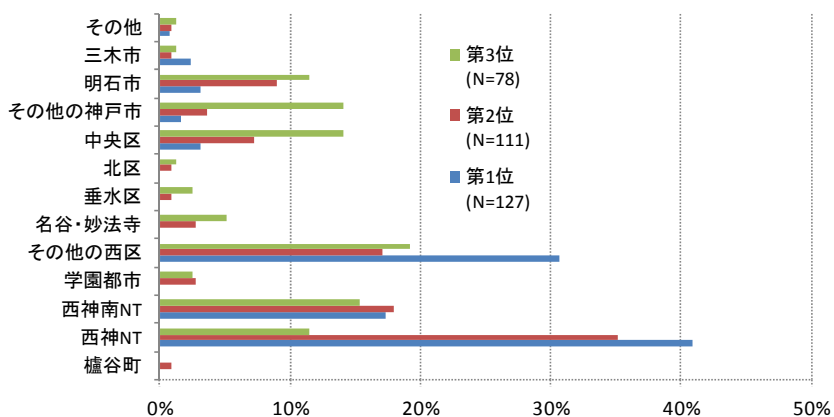


図10-2 休日の買物先(世帯単位)

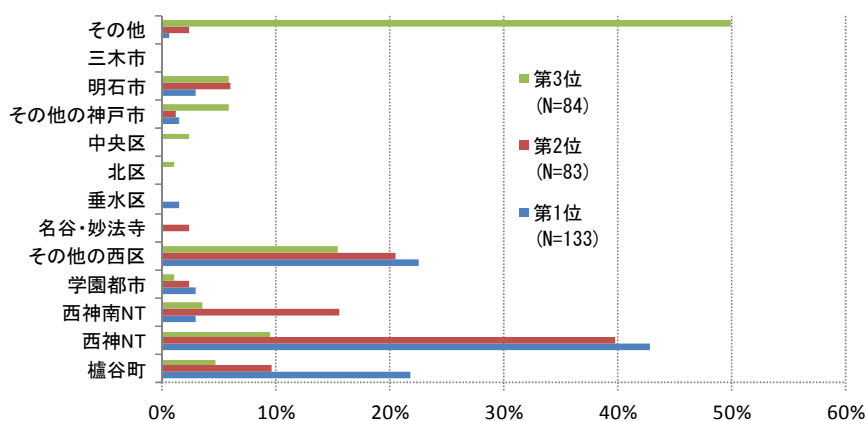


図10-3 軽い病気の治療先(世帯単位)

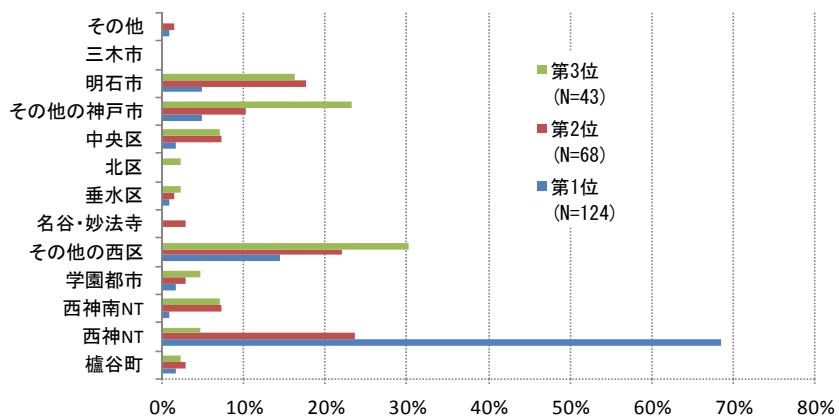


図10-4 入院・専門医の治療先(世帯単位)

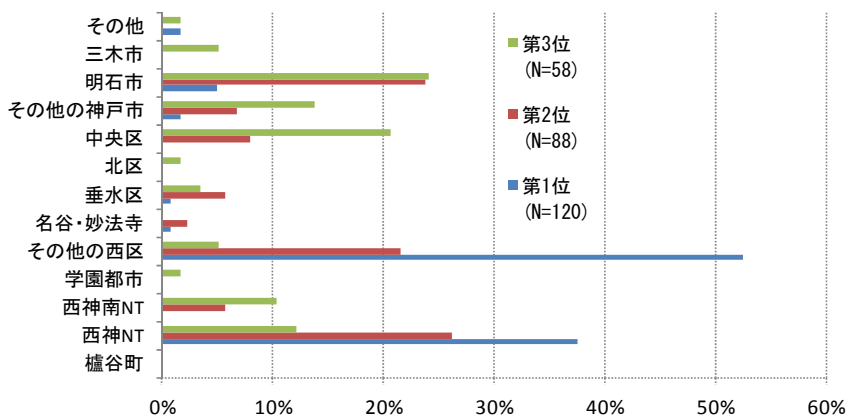


図10-5 外食先(世帯単位)

図11は世帯からみた西神NTの評価である。「買物」は“満足”と“概ね満足”が80%近くあり、4つの領域の中で満足水準が最も高い。これに「医療」「飲食」「娯楽」が続いている。“娯楽”の満足水準が低いのはニュータウンの宿命である。ニュータウンでは計画的にサービス機能が配置されること、娯楽は生活の基礎サービスの枠を超える性格をもつため、当初から機能が不十分であること、その結果、娯楽需要に十分応えられず、また需要の変化にも柔軟な対応ができない。これは“飲食”にも当てはまる。需要の変化に応じて土地利用を変えることができない。ニュータウンが退屈だとされる大きな理由の一つである。

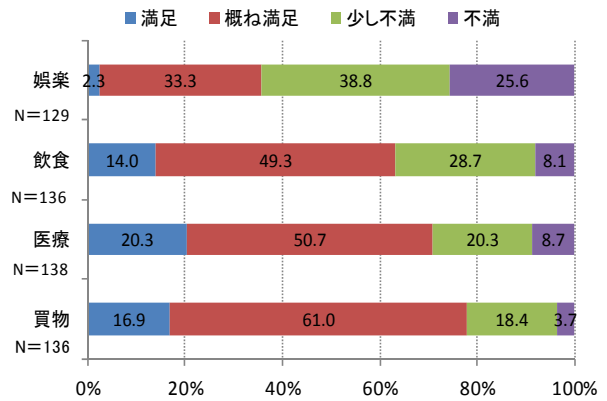


図11 西神ニュータウンの評価

#### 4-2 個人の回答

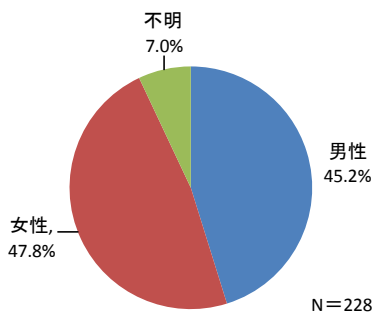


図12 性別

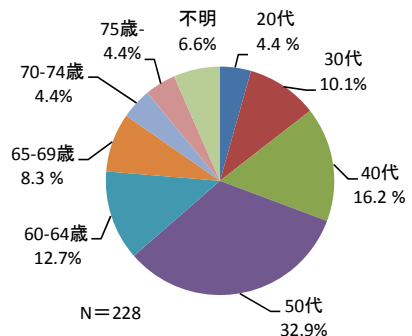


図13 年齢

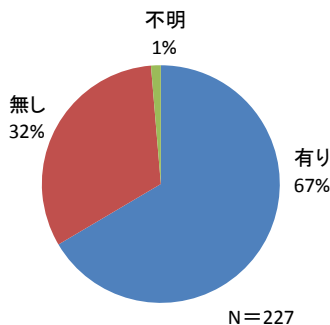


図14 職業の有無

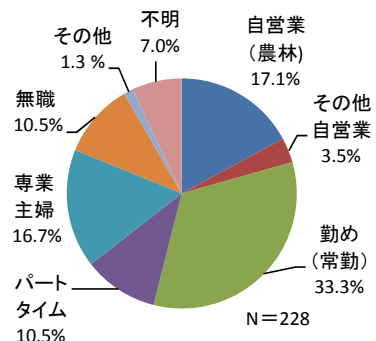


図15 職業

図 15 をみると「自営業（農林）」が 17.1%あり、農村的土地利用を反映している。他方、「勤め（常勤）」が 33.3%、「パートタイム」が 10.5%あり、44%が農業以外の仕事に就いており、兼業農家が多いことが分かる。その職場（図 16）は櫛谷町が最も多く 40%近くを占める。これは「自営業（農林）」と「パートタイム」の多くが地元で従業していることを示唆する。西神 NT をはじめとするニュー

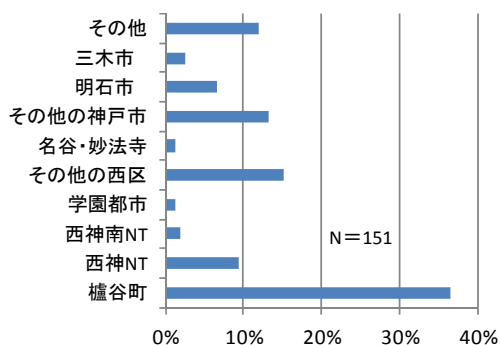


図16 職場

ータウンはそれぞれ隣接した工業団地を擁している。しかし従業者の割合は少なく、櫛谷町にとってニュータウンは生活サービスの供給地として機能している。

図 17-1~図 17-2 は仕事以外の外出先と外出頻度である。「西神 NT」が最も多く、40%近くが週 2・3 回以上の頻度で訪れている。ついで多いのが「西神南 NT」で、同じ頻度が 20%ある。これら両ニュータウンは櫛谷住民の居住空間にしっかり組み込まれており、田舎の良さを享受しながら必要に応じて都会を利用するという恵まれた条件にある。その他は月単位から年単位の訪問頻度が多く、必要なら行くこともあるという地域である。ただ「神戸都心」は比較的頻度が高く、西神 NT、西神南 NT では不足する都市機能を補う場所として利用されている。このように関係の深い西神 NT での居住希望の有無を示したのが図 18 である。25%が希望するに過ぎず 70%近くは希望がない。つまり居住地は櫛谷町で、必要な生活サービスは西神 NT でという志向が強く、いまのライフスタイルに満足していることが窺える。この志向は図 19 から読み取れる。田舎志向（田舎に住み、必要に応じて都会へ行く）が 70%を超え、逆に「都会志向」（都会に住み、必要に応じて田舎へ行く）は 20%に満たない。つまり櫛谷町の住民は自ら志向するライフスタイルを実践している。

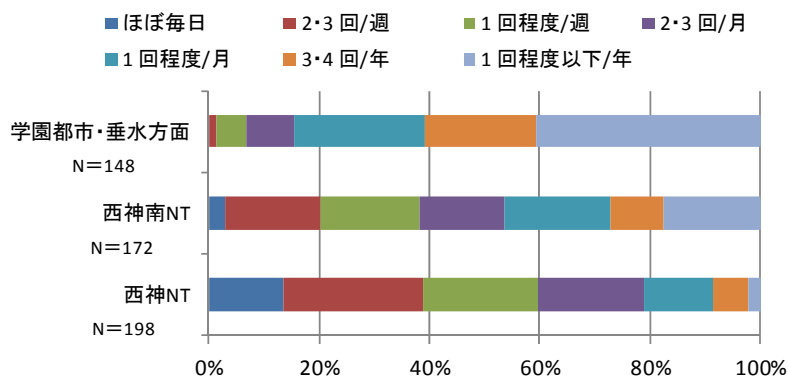


図17-1 外出先と外出頻度(1)

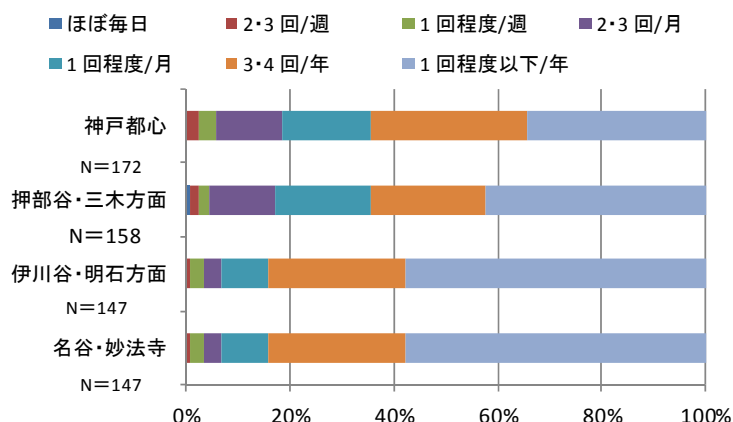


図17-2 外出先と外出頻度 (2)

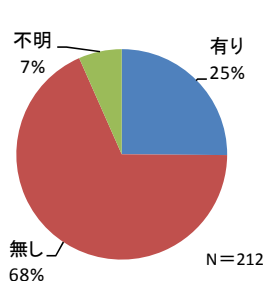


図18 西神NTでの居住希望

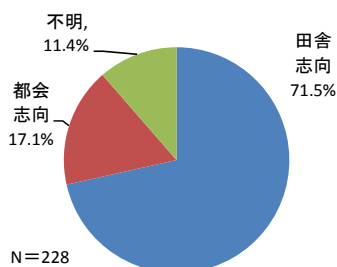


図19 ライフスタイルの志向

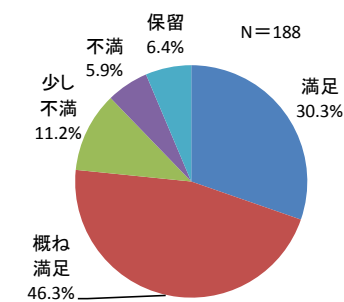


図20 住みやすさ評価

その結果、住みよさの評価（図 20）では、「満足」が 30.3%、「概ね満足」が 46.3% あり、合わせて 80% 近くが住みよさに満足している。居住地の良さと外出先の魅力、それに後者へ間のアクセスが程よく満たされていることが分かる。

先の住みよさの評価を居住条件ごとにみたのが図 21-1～図 21-4 である。図 21-1 を見ると「買い物」は“満足”と“概ね満足”を合わせて 50% に満たず、“不満”も 20% 近くある。櫛谷町に商業機能がないことを考えると、直近の西神 NT のタウンセンターに多くを依存せざるを得ないことに対する不満、あるいは西神 NT の商業機能そのものへの不満を窺わせる。このように満足と不満が拮抗する評価は同じく近隣に多くを依存する「医療・福祉サービス」でも見られる。「余暇活動」は“不満”少し不満“が 50% を超えている。

図 21-2 を見ると、「公共交通機関」「通勤・通学」は類似の傾向を示している。町内を通るバス交通の不便さと、地下鉄の利用に西神 NT か西神南 NT の駅までの移動を要することが不満の原因と考えられる。図 21.3 を見ると、「道路の整備」「都心へのアクセス」では 40% 程度は満足しているが不満の方が多い。町内を走る幹線道路



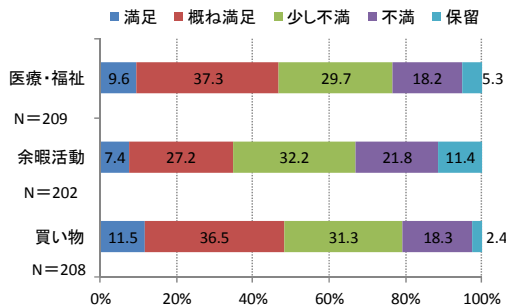


図21-1 居住環境の評価(1)

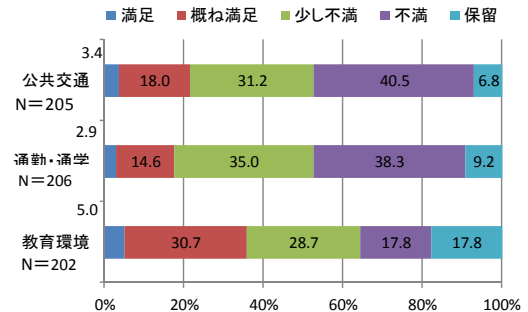


図21-2 居住環境の評価(2)

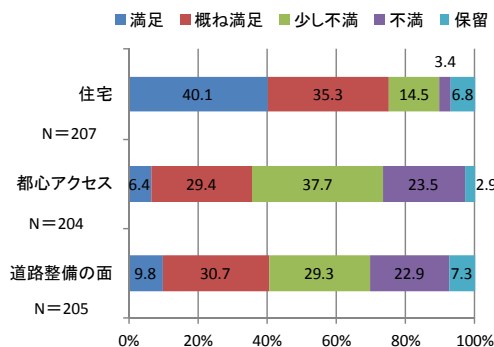


図21-3 居住環境の評価(3)

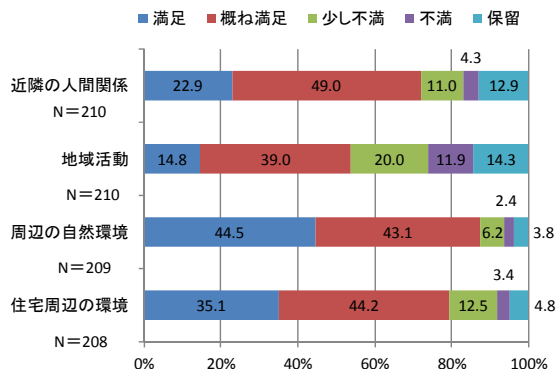


図21-4 居住環境の評価(4)

が一本しかなく、狭くて歩道の整備も不十分なのが原因している可能性がある。先の「公共交通機関」「通勤・通学」の評価を併せ考えると、都心への地下鉄利用は駅までバスか車での移動を要することへの不満を窺わせる。対して「住宅」の満足水準は非常に高い。これは住民の多くが昔から所有する土地に必要と希望に応じて建てた住宅に住んでいることが大きい。図 21-4 を見ると「住宅周辺の環境」「周辺の自然環境」「近隣の人間関係」で満足水準が高い。この理由として調整区域にあるため、新規の住宅開発がなく、昔ながらの土地利用、景観、人間関係が残されていることが挙げられる。ただそれらに比して「地域活動」はやや不満の割合が大きい。人口の減少や少子高齢化によって従来のような活動が難しくなっていることを示唆する。

最後にこのような居住地の評価を行っている住民が西神 NT をどのように評価しているかを見たのが図 22 と図 23 である。図 18 でみたように西神 NT での居住を希望するのは 25% に過ぎず、図 20 でみるように樋谷町での居住に概ね満足している。西神 NT の魅力(図 22)では「地下鉄・バスが便利」「買物が便利」「医療機関が整っている」が上位を占め、60% 近くが認めている。樋谷町と対照をなす居住条件である。

反対に問題点（図 23）では「住宅が高い」が最も多い、それでも 30%に過ぎない。そして「住宅が建て込んでいる」「街並みが人工的で親しみがない」「住宅が狭い」が続く。いずれも櫛谷町と対照をなす居住条件である。このように櫛谷町と西神 NT は隣接しながら対照的な居住環境にあり、その中で住民は西神 NT の魅力を利用して満足のいく生活を送っていることが窺える。また近年は地産地消市場の「六甲の恵み」が西神 NT と櫛谷町の接点で開業し、櫛谷町の農産物も供給されている。土地利用上の「田舎」と「都会」が近接し、相互に依存し合う関係は、今後成熟し高齢化するニュータウンの将来像を考えるうえで重要なテーマである。

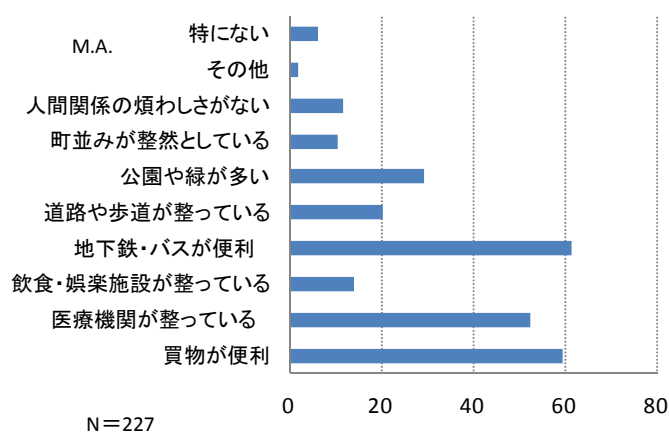


図22 西神ニュータウンの魅力

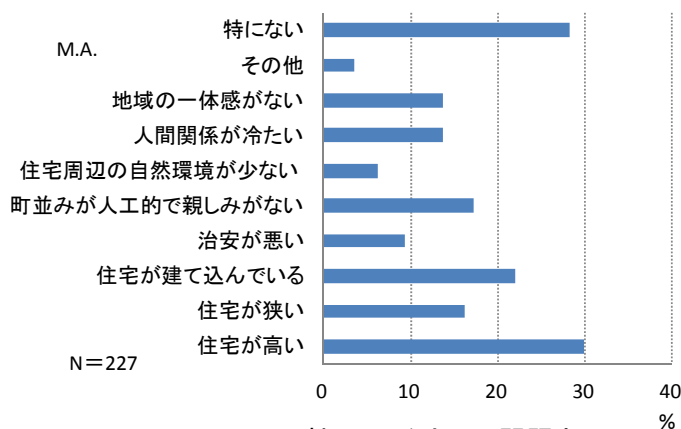


図23 西神ニュータウンの問題点

## 5. おわりに

### 5.1 主な知見

- ・3人以下の小規模世帯が多い一方で、家族数が6人以上の大規模世帯と三世代家族が少なからず存在する。そして90%を超える世帯で親族が西神 NT か西神南 NT に住んでおり、櫛谷町と両ニュータウンは血縁関係という強いきずなで結ばれている。
- ・生活サービスでは隣接の西神 NT と西神南 NT、とりわけ西神 NT への依存が大きく、地下鉄沿線の他のニュータウンへの依存は小さい。
- ・西神 NT と西神南 NT は、住民の日常生活圏にしっかり組み込まれており、他方、神戸の都心は両ニュータウンでは不足する都市機能を補う場所として利用されている。櫛谷町は田舎の良さを享受しながら必要に応じて都会を利用するという恵まれた立地条件にある。
- ・住みよさの満足水準が高く、西神 NT での居住希望は少ない。居住は櫛谷町で、生活サービスは西神 NT でという使い分けが認められる。田舎志向が大半を占め、住民は自ら志向するライフスタイルを実践している。
- ・居住条件の中では住宅の満足水準が非常に高く、住宅周辺の環境、周辺の自然環境、近隣の人間関係でも満足水準は高い。理由として新規の住宅開発がなく、昔ながらの土地利用、景観、人間関係が残されていることが挙げられる。
- ・住民は地下鉄・バスの便利性、買い物の利便性、医療機関の充実を西神 NT の魅力と考え、反対に住宅の高価格、住宅の密集、人工的な街並み、住宅の狭隘さを西神 NT の問題点と考えている。櫛谷町と西神 NT は隣接しながら対照的な居住環境にあり、住民は西神 NT のサービス機能を利用して満足のいく生活を送っている。

### 5-2 結び

以上のように櫛谷町の住民生活に占める西神 NT と西神南 NT の存在は大きい。住民は櫛谷町に居住地としての魅力を感じ、隣接ニュータウンに利用地としての魅力を感じている。これは田舎志向のライフスタイルに必須の条件である。そして田舎の良さを満喫しながら近隣の都市サービスを享受している。都市と農村の相互交流は長らく我が国の国土政策の目標であり続けている。しかしその実現は決して容易でない。田舎の都市への依存には経済合理性が大きく作用するが、その逆は政策的な後押しがなければ難しい。西神 NT に近いところにある貸農園を利用するニュータウン住民も少なくない。さらに地産地消市場の「六甲のめぐみ」が西神 NT と櫛谷町の接点で開業し、大いに賑わっている。もちろん櫛谷町の農産物も供給され農業振興に役立って

いる。人口が減少し、高齢化が進むなかで「田舎」と「都会」がどのように相互補完し合うのか。高齢化するニュータウンの将来像を考えるうえで重要なテーマである。この資料は調査結果の単純集計に過ぎない。さらに分析を進めてテーマに応える知見を得る必要がある。最後にアンケート調査にご協力いただいた樫谷町の方々に感謝の意を表したい。